R7 楡木小学校　学校通信
No.３４

なりたい自分になる！

In 楡木サラダボウル

令和７年１２月２４日
文責　余宮

２学期終業式を迎えました。保護者の方々のご理解とご支援に心からの感謝を申し上げます。

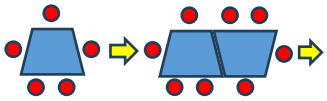
変化

１２月２４日、今日、２学期の学校での学習を終えました。１年間の中で一番長い学期を振り返ってみると、様々な変化が感じられます。つい、見学旅行や宿泊教室、修学旅行など校外での学習に目を引かれがちになります。もちろん、その場あの時の学習はリアルで、子どもたちの変化を強く促してくれたことでしょう。

でも、私は日常の何気ない一日の変化も、同じように尊いと感じています。

ただ、その変化は校外学習や行事の時に比べると、もしかしたら気づきにくいことかもしれません。

とある授業を参観したときの出来事です。算数の「変わり方」の学習でした。台形の各所に点を配置するような図が並んでいます。台形の数が増えれば点の数も増える。さあ、台形が７つの場合の点の数はいくつだろう。算数の授業っぽくなってきました。（下図を参照）



いろんな方法がありそう。例えば２＋３×７＝２３（個）。ほかにも５×７－２×６＝２３（個）。などなど。

（子どもさんと式の意味を考えてみてくださいね。）

さらに授業は進み、なんと台形２０個の時の点の数を求める問題に発展します。かなさん（仮名）は、７個の時には４×２＋３×$\boxed{5}$＝２３（①）と数えていたのですが、２０個の時、２＋３×$\boxed{20}$（②）にやり方を変更したのです。（同じ考えならば４×２＋３×$\boxed{18}$ですね）

担任の先生が「なんで変えたの？」とかなさんに問うたところ、かなさんはこう答えます。

「う～ん・・・まあ、（変えたことを」意識していなかったから）何となくかな。」

そうなんだ。あんまり変えたことって、意識していないんだなあ。

その後、担任の先生がかなさんへ再度問い返していくことで、かなさんの変化への思いがだんだん形作られていきました。最初の数え方①は、始めと終わりの台形を特別扱いしていた。でも、友達が発表した数え方②は「台形１つに対して３点ずつ」みたいに平等になっている、ように見える。だから、後の式にしたのかな、と。

かなさんは「平等」が大切だったんだね。そうか、そうだったんだ。

この出来事は、学ぶという活動に大変示唆的です。行事などの「ハレの日」には、その変化が自分でも見えやすくなる傾向にあります。しかし、あらゆる場面で学び変わりゆく子どもたちにとっては、もしかしたら日常の学びの場（ケの日）に意識的ではない場合が多い。

そして、その変化は他者からの促しによって自覚され、自分を形づくっていく。

２学期７９日間の中には、すっかり忘れてしまった日もあることでしょう。でも、その意識からなくなった日ですら、子どもたちは学び変化しているはず、です。

家族で過ごす時間も多い冬休みは、２学期をじっくりと振り返るとても良い機会です。ただ、子どもだけでは、その振り返りもままなりません。ぜひ、お家の方が気づかれたお子さんの変化（＝成長）の意味を、たくさんたくさん聴いてあげてください。できるだけ詳しく、しつこく、何度も。そして、素敵な成長を絶賛してあげてください。これがどうやら振り返りのポイントです。